

令和2年3月以降の市電・市バス乗車実績等について

1 市電

	乗客数（友愛パスを除く）			運輸収益（敬老・友愛パス負担金を除く）		
		対前年同月差	対前年同月比		対前年同月差	対前年同月比
令和2年 3月	734,093人	△ 200,873人	78.5%	102,378千円	△ 20,339千円	83.4%
令和2年 4月	494,135人	△ 441,731人	52.8%	89,241千円	△ 68,277千円	56.7%
5月	493,611人	△ 463,534人	51.6%	70,117千円	△ 57,562千円	54.9%
6月	703,640人	△ 214,952人	76.6%	95,553千円	△ 22,855千円	80.7%
7月	623,212人	△ 346,545人	64.3%	93,466千円	△ 44,506千円	67.7%
8月	627,524人	△ 342,889人	64.7%	97,124千円	△ 51,742千円	65.2%
9月	679,130人	△ 224,906人	75.1%	96,781千円	△ 32,733千円	74.7%
4～9月 計	3,621,252人	△ 2,034,557人	64.0%	542,282千円	△ 277,675千円	66.1%

2 市バス（4月以降は移譲路線分を除く）

	乗客数（友愛パスを除く）			運送収益（敬老・友愛パス負担金を除く）		
		対前年同月差	対前年同月比		対前年同月差	対前年同月比
令和2年 3月	678,337人	△ 168,859人	80.1%	94,271千円	△ 26,702千円	77.9%
令和2年 4月	366,280人	△ 233,105人	61.1%	73,829千円	△ 44,305千円	62.5%
5月	356,548人	△ 273,139人	56.6%	49,655千円	△ 47,508千円	51.1%
6月	478,014人	△ 111,421人	81.1%	70,727千円	△ 16,371千円	81.2%
7月	451,550人	△ 183,002人	71.2%	69,678千円	△ 25,463千円	73.2%
8月	402,254人	△ 200,218人	66.8%	71,004千円	△ 35,797千円	66.5%
9月	451,189人	△ 107,878人	80.7%	71,225千円	△ 24,521千円	74.4%
4～9月 計	2,505,835人	△ 1,108,763人	69.3%	406,118千円	△ 193,965千円	67.7%

3 市電・市バス両事業合計（表1と表2の合計）

	乗客数（友愛パスを除く）			運輸・運送収益（敬老・友愛パス負担金を除く）		
		対前年同月差	対前年同月比		対前年同月差	対前年同月比
令和2年 3月	1,412,430人	△ 369,732人	79.3%	196,649千円	△ 47,041千円	80.7%
令和2年 4月	860,415人	△ 674,836人	56.0%	163,070千円	△ 112,582千円	59.2%
5月	850,159人	△ 736,673人	53.6%	119,772千円	△ 105,070千円	53.3%
6月	1,181,654人	△ 326,373人	78.4%	166,280千円	△ 39,226千円	80.9%
7月	1,074,762人	△ 529,547人	67.0%	163,144千円	△ 69,969千円	70.0%
8月	1,029,778人	△ 543,107人	65.5%	168,128千円	△ 87,539千円	65.8%
9月	1,130,319人	△ 332,784人	77.3%	168,006千円	△ 57,254千円	74.6%
4～9月 計	6,127,087人	△ 3,143,320人	66.1%	948,400千円	△ 471,640千円	66.8%

4 経営への影響と今後の対応

上記のとおり、乗客数及び運輸・運送収益の減から、非常に厳しい経営状況となっており、年度途中での運転資金の不足や決算での大幅な損失が見込まれ、事業運営に支障をきたすことが懸念される。

今後、運転資金の不足については一時借入金で対応し、さらに影響が長期化する場合には、特別減収対策企業債等の長期の借入金での対応を検討するとともに、感染症対策に引き続き努めながら、利便性向上等に取り組み、利用者の回復を図ってまいりたい。

また、交通事業経営計画において、財政見通し等に大きな乖離が生じる恐れがあり、状況によっては、令和4年度に予定している同計画の中間見直しの時期を検討する必要もあると考えている。